

コンゴ(民)月例報告
政治関連
2019年2月

主な出来事

- チセケディ大統領は、初の外遊として、アンゴラ(5-6日)、ケニア(6-7日)及びコンゴ(共)(7-8日)を訪問し、首脳会談を行った。
- 9日、チセケディ大統領は、第32回 AU 総会(10-11日)参加のためアジスアベバを訪れた。AU 総会のフリンジでは、エジプト、コートジボワール、ナミビア、赤道ギニア、ギニア、南ア、ケニア、ルワンダ、ウガンダ等の各国首脳、モゲリーニ EU 上級代表及びグテーレス国連事務総長等と会談した。
- 12日、独立国家選挙委員会(CENI)は、昨年12月30日の直接投票選挙が延期された北キブ州のベニ選挙区、ベニ市及びブテンボ市と、マイ＝ンドンベ州ユンビ選挙区での国民議会選挙及び州議会選挙の投票を3月31日に行うと発表した。
- 14日、CENI は上院議員選挙に関し、108の議席数に対し874名が立候補届出を行ったと発表した。同選挙は3月15日に投票が行われ、開票結果は即日発表される。
- 20日、与党プラットフォーム FCC 所属の政治グループ及び政党指導者がキングカチに集結し、カビラ前大統領への忠誠を誓う誓約書に署名した。
- 22日、ベヤ大統領府治安担当特別顧問とベルギー臨時代理大使は、メゾン・シェンゲン再開のための同日付合意文書に署名した。メゾン・シェンゲンは別の名称で再開される予定である。
- 22日、米務省は、重大な汚職、人権侵害及び民主主義への妨害に関与したとして、ナンガーCENI 委員長を含む5名を米国への入国禁止とした。
- 23日、21-25日までキンシャサを訪れたパン米大湖地域特使はチセケディ大統領と会談面談した。また、同特使は滞在中にコンゴ(民)の市民社会、コンゴ・カトリック司教会議(GENCO)及びプロテスタント関係者、若手議員等と協議を行った。
- 26日、チセケディ大統領はガインゴブ・ナミビア大統領(SADC 議長)と会談するためウイントフックを訪れた。

1. 内政

(1)大統領府治安担当特別顧問の任命

・2日、チセケディ大統領は、ベヤ大統領府治安担当特別顧問(Francois BEYA KASONGO)を任命した。ベヤ特別顧問は前入国管理局(DGM)長官で、モブツ大統領時代には国家治安委員会に、ローラン＝デジレ・カビラ大統領時代には国家情報局(ANR)に在籍していた。

(2)国民議会議員任期の認証

・13日、国民議会は昨年12月30日の選挙で当選した485名の議員の任期を有効と認めた。

(3)チセケディ大統領から外交団への挨拶

・15日、チセケディ大統領は当地外交団及び国際機関代表を Cite de l' OUA に招集して挨拶のための式典を開催した。会場には、当地外交団及び国際機関の他、政府及び治安当局関係者(PNC, ANR 等)等の出席が確認された。

(4) チセケディ大統領とカビラ前大統領の協議

・17日、チセケディ大統領とカビラ前大統領は、新政府の樹立における連立に向けた協議を行った。なお同協議は、1月25日に大統領府で行われた引継ぎ式で「必要に応じて定期的に会談する」との約束に基づくものであり、それ以降初の協議となる。今回の協議は非公開で、プレス声明等は発表されていない(17日付 AFP)。

(5) 第1回国家治安委員会の開催

・19日、チセケディ大統領は、情報機関、大統領府官房長、軍・警察幹部、人権大臣及びキンシャサ市長を招集して、国家治安委員会の初回会議を開催し、北キブ州ベニ及びブテンボでの大量殺害の継続、キンシャサ市の治安問題、マイインドンベ州ユンビの避難民の帰還等について協議した。

(6) カビラ前大統領及び FCC の政治活動再開

・20日、与党プラットフォーム「FCC(Front Commun du Congo, コンゴ統一戦線)」所属の政治グループ指導者がキングカチ(当館注:キンシャサ市近郊ンセレ地区、カビラ前大統領所有の広大な農場および邸宅等がある)に集結し、カビラ前大統領への忠誠を誓う誓約書に署名した。

(7) メゾン・シェンゲン再開及びブリュッセル航空の再増便に関する合意

・22日、ベヤ大統領府治安担当特別顧問とブロンシャン・ベルギー臨時代理大使は、メゾン・シェンゲン再開のための同日付合意文書に署名した。シェンゲン協定加盟国との協議の結果、メゾン・シェンゲンは別の名称で再開される。

・22日、ブリュッセル航空とコンゴ(民)空港公団(RVA)は、昨年2月のコンゴ(民)側の通達により、当初の週7便から週4便に削減されていたブリュッセル航空のキンシャサ・ブリュッセル便を週7便に戻す合意に署名した。

(8) ギゼンガ PALU 党首の死去

・24日、PALU 幹部及びメンデ政府報道官は、ギゼンガ PALU 党首(1960-61年副首相, 2006-08年首相)が同日死去したと発表した。93歳だった。

(9) 新政権与党 UDPS の動向

党結成37周年式典でのカブンド UDPS 党首代行の発言

・15日、新たに政権与党となった UDPS はリメテの党本部で党結成37周年の式典を開催した。カブンド党首代行は同式典で、(チセケディ新大統領の当選に異議を唱え、自身の勝利を主張するファユル ECiDe 党首を支援したベンバ MLC 党首及びカトゥンビ元カタンガ州知事がベルギーに滞在していることに関し)「ベルギーはチセケディ政権に対する反乱を望む者の隠れ場(repaire)となった」と発言した(15日付 RFI)。

(10) 野党の動向

ア 野党プラットフォーム「Lamuka」の政治集会

・2日、野党プラットフォーム「Lamuka」は、選挙結果に異議を唱えるべく、キンシャサ市ンジリ地区の Sainte Therese 広場で集会を行った。

イ ファユル ECiDe 党首が AU 各国首脳に書簡を送付

・8日、ファユル ECiDe 党首(落選した野党プラットフォーム「Lamuka」の候補者)は、選挙結果を検証し、6か月以内に新たな選挙を組織するための特別委員会の創設を求める書簡を AU 各国首脳に送った(8日付 RFI)。

ウ カトゥンビ元カタンガ州知事のコンゴ(民)旅券申請・発給

・27日、カトゥンビ氏は2018年2月に申請を却下された新たな生体認証式旅券を入手するため、同日在ベルギー・コンゴ(民)大使館に申請を行い、28日夜に旅券が発給された(28日 Zoomeco)。

(11)独立国家選挙委員会(CENI)の動向

ア 北キブ州(ベニ選挙区、ベニ市及びブテンボ市)及びマイ＝ンドンベ州ユンビでの投票日

・12日、CENI は、昨年12月30日の直接投票選挙が延期された北キブ州のベニ選挙区、ベニ市及びブテンボ市と、マイ＝ンドンベ州ユンビ選挙区での国民議会選挙及び州議会選挙の投票を3月31日に行うと発表した。

イ 上院議員選挙の立候補状況

・14日、CENI は上院議員選挙の立候補状況に関し、108の議席数に対し874名が立候補届出を行ったと発表した(15日付 Radio Okapi)。

・28日、CENI は上院議員選挙の投票を3月14日ではなく3月15日に行うと発表した。開票結果は即日発表される。

ウ 州知事選挙の立候補状況

・15日、CENI は国内26州のうち24州(当館注:昨年12月30日に実施された大統領、国民議会及び州議会選挙の投票が延期された選挙区(ベニ地区、ベニ市、ブテンボ市、ユンビ選挙区)のある北キブ州とマイ＝ンドンベ州を除く)の州知事及び副州知事の立候補者リストを発表した。なお、イツリ州で立候補したバマニサ候補(当館注:元オリエンタル州知事で、ベンバ MLC 党首の義弟)及びビタクウィラ農村開発大臣を含む12名(独立候補10名、政党擁立候補2名)が不受理と判断された(その後、ビタクウィラ候補及びバマニサ候補の立候補が州の控訴院で受理可能と判断された)。政党別では PPRD が最も多い11名を擁立し、続いて UDPS の10名となっている。バハティ計画大臣の率いる AFDC et Allie はモンガラ州と南キブ州で2名を擁立したのみである。

2. 外交

(1)チセケディ大統領の初外遊

・チセケディ大統領は、初の外遊として、アンゴラ(5-6日)、ケニア(6-7日)及びコンゴ(共)(7-8日)を訪問し、首脳会談を行った。なお、チセケディ大統領には、シェ・オキトウンドウ外相、ヤヴ財務相等が随行した。

(2)チセケディ大統領の AU 総会参加

・9日、チセケディ大統領は、第32回 AU 総会(10-11日)参加のためアジスアベバを訪れた。AU 総会のフリンジでは、エジプト、コートジボワール、ナミビア、赤道ギニア、ギニア、南ア、ケニア、ルワンダ、ウガンダ等の各国首脳、モゲリーニ EU 上級代表及びグテーレス国連事務総長等と会談した。

・チセケディ大統領は AU 総会において、第2副議長に選出された。

(3)チセケディ大統領のナミビア訪問

・26日、チセケディ大統領はガインゴブ・ナミビア大統領(SADC 議長)と会談するためウイントフックを訪れた。チセケディ大統領の就任以降5か国目の訪問国となる

3. 東部及び大湖地域情勢

(1)ヴィルンガ国立公園での観光再開

・16日、北キブ州ヴィルンガ国立公園のメロード代表は、15日以降、同公園の2サイト(ニーラゴ火山サイト及びマウンテンゴリラのキブンバ・サイト)を観光客に開放すると発表した。同公園

は2018年5月11日に英国人観光客2名とコンゴ(民)人運転手1名が誘拐(その後無事釈放)され、女性レンジャー1名が殺害されたことで、観光客への開放を中止していた(16日付 AFP)。

(2)北キブ州における国境なき医師団(MSF)の活動中止

・17日、MSF は北キブ州マシシ保健区での活動を無期限に中止すると発表した。この決定は、8日に、同州ニャビオンドーマシシ間で発生した事件(詳細未公表)により決定されたものである。なおMSFは、現地スタッフを削減するものの、マシシ病院での緊急処置は確保する(17日付AFP)。
・28日、MSF は北キブ州ブテンボ市のエボラ治療センター(CTE)が24日にマイマイ(自警団的な性格をもった武装集団)に襲撃されて火災が発生、続く27日にも同市キメミ地区のCTE が襲撃されたことで、新たな決定までの間同州での活動を中止すると発表した(28日付 Actualite)。(当館注:その後3月4日、保健省は、27日に攻撃を受けたブテンボ市キメミ地区のCTE を3月2日から再開したと発表した。なお、MSF の活動停止に伴い、同CTE は保健省がWHOとUNICEFの協力を受けて運営する(4日付 Actualite)。

(3)ゴマ市で市民8名が殺害

・16日夜から17日にかけて、北キブ州ゴマ市の3か所で、合計8名の市民が殺害された(ムグンガ5名、カトイ1名、ブエネ1名)。ムグンガ地区の青年副部長によると、犯人は通行人に向けて発砲した模様である。なお同事件は、チセケディ新大統領の当選に異議を唱えているファユルECiDe 党首がブテンボ(ゴマ市から266キロ)での集会のため北キブ州に滞在中に発生した(17日付 AFP)。

(4)元 M23メンバーの一部のコンゴ(民)送還

・26日、ウガンダ外務省は、2013年12月に署名されたナイロビ合意の枠組のもと、70名の元M23メンバーを同日コンゴ(民)に送還したと報じた。なお、26日にウガンダを出発した元 M23メンバーは、ウガンダからの自主的送還プログラムの対象者約1,500名のうち316名のみである(26日付 AFP)。

4. その他地域情勢

カサイ州で治安当局がカムウィナ・ンサブを名乗る民兵19名を殺害

・24日、カサイ州カマコ(チカパ市の南約150キロ)で、武装解除した後、21日以降同地に集結していた318名のカムウィナ・ンサブを名乗る民兵(当館注:ルバ族)とカマコの市場で商売を行うテテラ族(Tetela。当館注:旧東カサイ州周辺の少数部族)との間で緊張が高まった。このため軍隊が介入し、19名(女性1名、子ども7名を含む)のカムウィナ・ンサブを名乗る民兵が殺害され、14名が重傷を負った。テテラ族側はその後、銃等の武器を持って市内を回り、ルバ語を話す者を捕らえたとの証言もある(26日付 RFI)。

5. その他

(1)元コンゴ(民)国籍者への査証申請手続きの緩和

・18日、入国管理局(DGM)は、すべての元コンゴ(民)国籍保持者で有効な旅券を所持する者は、コンゴ(民)との関係を証明することができる場合に限り、国境での査証取得を認めるとする16日付の決定を発表した。元コンゴ(民)国籍であることは、コンゴ(民)人特有の姓名、出生証明書、旧旅券及び旧身分証明書等によって証明が可能である。また、発給される査証は3か月以内となる(18日付 AFP)。

(2)米による独立国家選挙委員会(CENI)幹部等への入国禁止制裁及び査証規制

・22日、米務省は、重大な汚職、人権侵害及び民主主義への妨害に関与したとして、ナンガーCENI 委員長、バセンゲジCENI 副委員長、ムコロCENI 委員長顧問(当館注:バセンゲジ副委員長の実子)、ミナク(前)国民議会議長、ルワンバ憲法裁判所裁判長の5名に米国への入国禁止制

裁を課した。また、コンゴ(民)における人権侵害及び民主主義への妨害に関与もしくは共謀した選挙関係者及び軍・政府高官に対し査証制限が行われる。

(3) 米大湖地域特使のコンゴ(民)初訪問他

- ・21-25日、パン米大湖地域特使(Dr. Peter PHAM, Special Envoy for the Great Lakes Region of Africa)は、昨年11月の任命後初のコンゴ(民)訪問を行った。
- ・23日、パン米大湖地域特使はチセケディ大統領と会談した。また、同特使は滞在中にコンゴ(民)の市民社会、コンゴ・カトリック司教会議(GENCO)及びプロテスタント関係者、若手議員等と協議した。
- ・28日、カトウンビ氏が代表を務める野党プラットフォーム「Ensemble(アンサンブル)」はツイッターに、同日カトウンビ代表がパン米大湖地域特使と面談したとのメッセージを写真付きで掲載した(当館注:面談場所はブリュッセルの米国大使館と思われるものの、公表されていない)。